

ペットに生肉をあげてもいいの？ ～お肉は加熱して与えましょう～

みなさまの中には、ペットのごはんを手作りされる方もいるのではないでしょうか。

人と同じものを食べさせると塩分や糖分の摂り過ぎになるため注意が必要ということはご存知の方も多いと思います。

しかし、リスクはそれだけではありません。

ここでは、ペットに生肉を与えることについて、注意点をご紹介します。



ペットの健康を守るために

環境省のホームページに『飼い主のためのペットフード・ガイドライン～犬・猫の健康を守るために～』が掲載されています¹⁾。このガイドラインには、犬と猫に与えてはいけないもの、注意が必要なものが記載されています。

今回ご紹介する生肉は、「△注意が必要なものの」として、下の図のように、有害な寄生虫や細菌が存在する可能性があるため、加熱調理が推奨されています¹⁾。生肉の他にも、与えてはいけないもの、注意が必要なものが紹介されていますので、ペットのごはんを手作りされる方は、ぜひこのガイドラインをご覧ください。

ガイドラインはこちら▼



■生肉



生肉（生の豚肉や野生鳥獣肉）には有害な寄生虫や細菌が存在する可能性があるため注意が必要です。犬や猫に肉を与える時は加熱調理を行い予防しましょう。



【出典】

- 1) 環境省「飼い主のためのペットフード・ガイドライン～犬・猫の健康を守るために～」
https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/pamph/petfood_guide_1808.html
- 2) FAMICホームページ > ペットフード > 事業者のみなさまへの注意喚起
<http://www.famic.go.jp/ffis/pet/sub3.html>
- 3) 愛玩動物用飼料の成分規格等に関する省令（平成21年4月28日農林水産省令・環境省令 第1号）
http://www.famic.go.jp/ffis/pet/hourei/sub1_seibunkikaku.html

猫が鳥インフルエンザに！？

2024年末以降、米国各地で猫の鳥インフルエンザによる死亡例が報告され、家きん肉の生食が原因と推察された事例もありました。米国政府などは、鳥インフルエンザに限らず疾病のまん延を防ぐために、人及びペットが生又は加熱されていない肉製品や乳製品を避けることなどを強く推奨する旨を発表しました。



米国で問題となったペットフードの日本国内での流通・販売は確認されていません（2025年11月時点）²⁾。加えて、国内のペットフードの安全確保については、愛玩動物用飼料の成分規格等に関する省令³⁾の「2 販売用愛玩動物用飼料の製造の方法の基準」に「(1) 有害な物質を含み、若しくは病原微生物により汚染され、又はこれらの疑いがある原材料を用いてはならない。」と定められています。

さらに、輸入される家きん肉は動物検疫を受けていますし、国内で鳥インフルエンザが発生した場合でも、感染が確認された家きん肉や鶏卵が市場に出回ることはありません。



生肉が寄生虫や細菌に汚染されていた場合は、食べ残しやフンも汚染されることになるため、それを処分する飼い主さんへの感染リスクもあります。

人の「生食用」で売られている肉を用いることでリスクを減らすことはできるでしょう。それでも食中毒予防の3原則（つけない、増やさない、やっつける）にしたがってしっかり加熱調理されることをお勧めします。スキンシップやトイレ処理後の手洗いも忘れずに！

大事なペットと一日でも長く暮らせるよう、健康に育ててあげたいですね。



ご注意

ペットフードの広告に「FAMIC基準に合格」などと標榜している事例がありますが、当センターでは、工場の衛生管理や製品の安全性に関し、基準設定や認定試験を行ってはおりません。